

(資料 1)

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）、豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）（とよはししみんぞくしりょうしゅうぞうしつほんとう（きゅうためしょうがっこうほんこうしゃ）、とよはししみんぞくしりょうしゅうぞうしつにしとう（きゅうためしょうがっこうにしこうしゃ））

員 数：2 件

所在地：豊橋市多米町字滝ノ谷 34-1-1

所有者：豊橋市

1 登録理由

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）

多米街道沿いに校地を構え、西棟とともに市内に残る唯一の木造校舎群である。当時の学校建築の標準とされた方柱が用いられ、内観の特徴となす建築物。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）

本棟の西側に位置し、本棟と比較して、出窓など洋風の意匠が見られ、当時ではモダンな学校建築物。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

2 概要

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）

木造平屋建、瓦葺、建築面積 618 m²、建設年代 昭和 19 年

豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）

木造平屋建、瓦葺、建築面積 312 m²、建設年代 昭和 29 年

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）及び豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）は、豊橋市の東部、豊橋駅から東へ 6 km 程に位置し、山地を整地した標高 47m ほどの小高い場所に建つ。校地の南側には多米街道が通っている。

旧多米小学校は、明治 34 年（1901）に多米村立多米尋常小学校としてこの地に移転して以来、昭和 16 年（1941）からは豊橋市多米国民学校、昭和 22 年（1947）から豊橋市立多米小学校と改称し、現在の多米小学校が朝倉川の南に移転する昭和 51 年（1976）まで、用地の拡張や校舎の建替え・改修等を行いながら地域の小学校として存続し、昭和 53 年（1978）に豊橋市民俗資料収蔵室として用途変更された。

「学校日誌」によると、旧多米小学校本校舎は、昭和 19 年（1944）10 月に竣工し、旧多米小学校西校舎は、昭和 29 年（1954）に児童数の急増に対応するために新設された。

豊橋市民俗資料収蔵室本棟（旧多米小学校本校舎）は、桁行 62m、梁間 10m の木造平屋建切妻造瓦葺の建物で、玄関、廊下、展示室 A～E（旧教室）、展示室 F（旧職員室）、管理室（旧応接室・校長室）、倉庫（旧土間）、土間からなる。地震や風圧による変形を防ぐため、柱と梁の取

り付け部分に当時の学校建築に標準化された「方杖」を採用している。また、資材調達困難な戦時下において、転用材は使用されておらず、比較的良質な木材が用いられている。

豊橋市民俗資料収蔵室西棟（旧多米小学校西校舎）は、桁行 34m、梁間 9 m の木造平屋建切妻造葺瓦葺の建物で、土間、収蔵室 3 室（旧理科室、旧教室 2 室）、廊下からなる。この建物は、出入口を思わせる縦長の採光用の固定窓の間に、縦長角格子の引違ガラス戸の出窓が収まる洋風意匠を特徴とする学校建築である。



本棟正面 南から（豊橋市教委提供）



西棟正面 南東から（豊橋市教委提供）